

北条鉄道について



黒田 秀一 議員
(自由民主党・無所属の会)

問 北条鉄道の経営が想像以上に厳しい状況だと理解しているが、今年度の収支見込みは。

答 新型コロナウイルス感染症の影響により、9月からの増便による増収等を加味しても、昨年度よりさらに1,300万円の赤字がかさむと予測しています。

問 増便ダイヤの粟生駅での接続について、加古川発の列車で北条町行にうまく接続できない便があり、増便による利便性が感じられないが。

答 できるだけ利便性の高いダイヤとするため、できる限りの調整をしましたが、1分2分の違いで接続できない便もあります。今後、JR加古川線や神戸電鉄とダイヤ改正も含めた協議調整を進め、早ければ来年3月のダイヤ改正時を目指し、さらなる改善と利便性の向上に努めます。

問 法華口駅ホーム延伸工事は、基礎やフェンスの取り付け等はずさんであり、乗客の安全は問題ないのか。認可されたとはいえ、もしの場合は誰が責任をとるのか。

答 延長ホームも含めて工事認可の変更届を近畿運輸局へ提出し、認可されているため、問題はないと考えています。あわせて定期的な点検もしっかりと行い、利用者の安全確保を図っていきたいと考えます。事故が起こら

ないように万全を期して取り組んでまいります。

問 法華口駅行き違い設備完成による費用対効果について、費用便益分析では7年間は利用者が伸び続け、収入も1年目から増加するとなっている。しかし、耐用年数経過後の再投資額は、当初の設備投資以上となるとのことだが、どういうことか。

答 平成30年度の費用便益分析では、増便に伴う収益増だけではなく、その設備投資に伴う経常経費的なランニングコストも後の負担ということで加味し、便益調査を行いました。燃料費、人件費、設備更新費また人口減少も加味した将来計画として分析しています。現状の赤字を踏まえ、今後も収益改善、利用者増という取り組みはしっかり行う必要があると認識しています。

加西市みんなを支え合う 新型コロナウイルス感染症対策基金について



丸岡 弘満 議員
(自由民主党・無所属の会)

問 病院の職員及び会計年度職員に対して、文書や口頭により、一体どれだけの寄附依頼をしたのか。

答 5月13日の病院職員の管理職会で、市長より基金の趣旨や目的・用途について説明を受けました。5月19日には職員に協力を依頼する院長のメッセージを院内電子掲示板に掲載し、5月18日付で市長から職員に宛てたメッセージ、寄附の方法を示した文書と寄附の申出書の様式、ポスターからの天引き依頼書も添付し

て掲示しました。その後、院内電子掲示板を閲覧できない職員等もあるため、6月1日に同内容の書面を各職場に配付しました。

問 普段の数倍の心労の中でさまざまな業務に対応し、感染リスクを抱えて最前線で働く医療従事者、病院職員に対して、なぜ寄附を求められたのか。

答 (市長) なぜ求められたのかと言われることが不思議ですが、市民一丸となりこの状況を打開しようと基金をつくったつもりです。本庁職員、病院職員関係なく、同じ思いで一丸となろうという出発点で、当然呼びかけるのが当たり前だと思っています。

問 テレビ取材に対し「病院が率先してやるということが、より社会に与えるインパクトは大きく、対象にさせていただきまし

た。」と答えられているが、インパクトのために病院職員へ寄附を求めるのはいかがなものか。わざわざ病院へ行って要請をされたのはなぜか。

答 (市長) 問われることが不思議なんです。病院の職員も同じ職員です。病院側で幹部職員を集めていただき、その場で映像を撮ったものを各職員も見ただけということでしたが、機械の不具合でそれができなかったことは大変残念でした。その分を文書にして渡すという作業になり、負担をかけたと思います。ただ、当然同じ職員として呼びかける立場にあると思っています。

■その他の質問項目

- ・ 県・市道、通学路の安全対策や市民要望について
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策について